

電源の接続

788T右側にあるヒロセ 4PコネクタにDCプラグを接続し、PWRスイッチを押すと788Tが起動します。シャットダウンするには、PWRスイッチを長押ししてください。



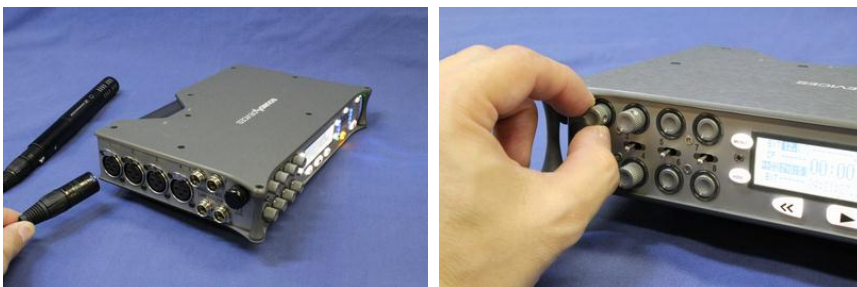
バッテリーの装着

788Tの背面にバッテリーを挿入し、ロックピンを回して固定します。



コンデンサーマイクロフォンの接続

788Tの左側にマイクロフォンの接続された XLR コネクタを装着します。フロントの INPUT GAIN ノブが左に回ってきてあると回路がオフです。(ノブを回すと カチッという音がします。)

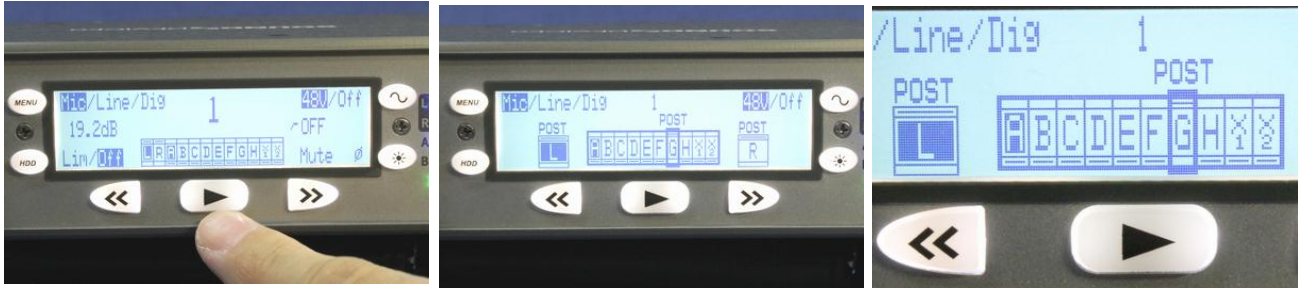


INPUT GAIN-1 ノブのすぐ下にあるトグルレバーを左に倒すと、INPUT-1 に関する設定を行うことができます。LCD画面の右上に位置するトーンボタンを押すと、ファンタム 48V をマイクロフォンに印加することができます。



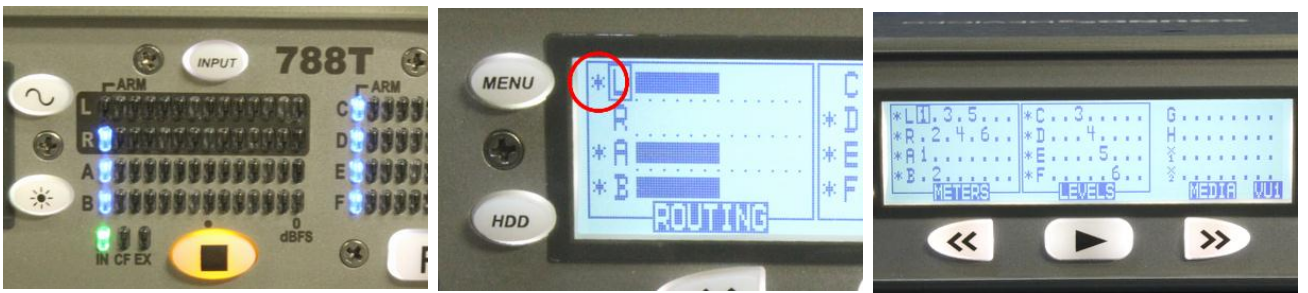
トラックルーティング

ここで、トラックルーティングについて確認しておきましょう。INPUT-1の入力設定画面が表示された状態でPLAYボタンを押すとルーティング設定画面に入ります。788Tの右側にあるロータリーエンコーダを回すと、どのトラックへ INPUT-1 の信号を送るか選択できます。ロータリーエンコーダを押し込むとルーティングされます。さらに長押しすると、そのトラックへ送られる信号のピックアップポイントを Pre Fader か Post Fader か選択することができます。



録音イネーブル

788TのLEDレベルメーターの左側にある青いLEDは、そのトラックへ録音されることを意味します。INPUTボタンを押した時に表示されるLCDレベルメーター上の、*(アスタリスクマーク)の有無でも確認することができます。



この画面が表示されているときに、ロータリーエンコーダを操作してイネーブル(*)を解除することができます。ここでREWボタン(ROUTING)を押すと、リバース・ルーティングを行うことができます。トラック側から見て、どのインプットチャンネルから音声を送られるか、を設定することができます。

マスターチャンネル

LCDレベルメーター画面で、PLAYボタン(LEVEL)を押すと、L&RとAUXトラックのマスターフェーダーレベルを調整することができます。ロータリーエンコーダを押し込むと、該当するマスターフェーダーが0dBリセットされます。



CL-9 フェーダーオプションの接続

788T と CL-9を写真のようにUSBケーブルで接続します。788T側は、KEYBOARDと記載された挿入口に接続してください。次に、ヘッドフォン延長ケーブルを接続します。必要であればCL-9にUSBキーボードを接続することができます。



CL-9 を装着すると、788Tのフロントパネルにある INPUT GAIN ノブは機能しなくなります (INPUT 回路のオフは可能です)。マイクロフォンゲインの調整は、フェーダーの上にあるロータリーエンコーダで行います。

CL-9のUSBケーブルを抜くと、インプットゲインの値は一時的に保存され、788T側の INPUT GAIN ノブが機能し、インプットフェーダーはバイパスされます。



CL-9 の設定 -1

788T内蔵のスレートマイクを使用するために、Comm: Send Source メニューで Built-In に設定します。CL-9の SLATE スイッチにより、内蔵マイクロフォンからテイク・メモを録音することができます。スレートマイクの録音先は、Coms: Routing メニューから設定することができます。



CL-9 の設定 -2

CL-9のチャンネル・エンコーダは、デフォルトで INPUT GAIN、EQ、Output Level を調整することができますが、ユーザーの設定により、Inputの位相 や HPF、48v ファンタム機能を割り当てることができます。割り当てられた機能は、CL-9上の Shift ボタンを併用して呼び出すことができます。



Shift ボタンを押してから、EQ FREQ ボタンを押すと、登録されたモード(ここでは Phase モード)が呼び出されます。エンコーダを押すと788TのLCD画面に INV と表示され、位相が反転します。

また、EQ 調整時に、チャンネル・エンコーダを押し込むと、EQ Bypass することができます。

CL-9 のモニターセクション

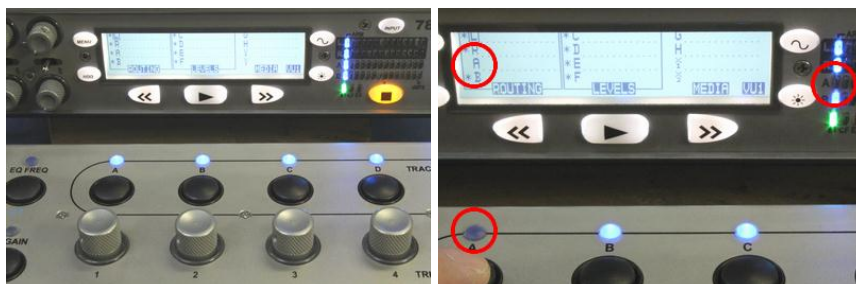
RECORD ボタンを押すと、録音が始まります。録音を停止するには、STOP ボタンを1秒以上押し続けてください。モニターセクションの右側エンコーダは788Tのロータリーエンコーダとリンクしているので、ヘッドフォンソースの切替や、メニュー画面での操作をCL-9上から行うことができます。モニターセクションの左側エンコーダは、788T本体のHP調整ノブとリンク動作しているので、ヘッドフォン音量を調整することができます。



モニター用トグルノブを右側に倒すと、RTNモニターです。CL-9に接続されたカメラリターン信号をモニターすることができます。HPノブを押すと、RTN MONO が点灯し、モノラルミックスをモニターすることができます。SHIFT ボタンが押されたとき、青文字の TONE や SLATE を使用することができます。このとき LED は青色に点灯します。

トラックイネーブル

チャンネル・エンコーダ上にあるボタンは、トラックイネーブルボタンです。青 LED の点灯しているときに該当トラックが録音されます。Track-A のボタンを押すと、788T上の LCD 画面や LED レベルメーターも連動してイネーブル設定が切り替わります。



リバース・ルーティング

トラックイネーブルボタンを長押しすると、リバース・ルーティングモードに入り、ボタン上の LED は緑色に点灯します。チャンネル・エンコーダを押すと、該当する入力から音声を送られます。チャンネル・エンコーダを長押しすると、Pre Fader (緑点灯) と Post Fader (赤点灯) を切り替えることができます。



— END —